

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2017年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2018年 月 日 提出

1. 研究課題名	
欧米の日本美術品のデジタル・アーカイブによる WEB 版総合目録構築 (英文標記: Making WEB Union Catalogue of the Japanese arts in Europe and U.S.A.)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Monika BINCSIK	メトロポリタン美術館・アシスタントキュレーター
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Janice Katz	シカゴ美術館・アソシエート学芸員
Hnas Thomsen	チューリッヒ大学美術史学科・教授
Markéta Hánová	プラハ国立美術館・アジア館・主任学芸員
Ellis Tinios	リーズ大学・名誉講師
Timothy Clark	大英博物館・アジア部・日本担当主任学芸員
Rosina Buckland	スコットランド国立博物館・東アジア担当上級学芸員
Melanie Trede	ハイデルベルグ大学・東アジア美術学部・教授
Donatella Filla	キオッソーネ東洋美術館・館長
Daan Kok	ライデン民族学博物館・学芸員
Bonaventura Ruperti	ヴェネチア大学・日本学科・教授
Toshie Marra	カリフォルニア大学バークレー校・東アジア図書館・日本担当司書
John Carpenter	メトロポリタン美術館・日本部門主任学芸員
BOSCOLO MARTA	ヴェネチア東洋美術館・館長
李増先	立命館大学衣笠研究機構・専門研究員

赤間 亮	立命館大学文学部・教授
中尾由香里	立命館大学文学研究科・M1
常木佳奈	立命館大学文学研究科・D1
川内有子	立命館大学文学研究科・D3
Vanessa Tothil	立命館大学文学研究科・D4

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)

本研究は、アメリカとヨーロッパを中心とする博物館や個人コレクターが所有する日本美術品を、ARC のデジタル・アーカイブ技術を借りてデジタル化を進め、1館毎の博物館の壁を越えた総合的な日本美術品カタログを共同作業によって WEB 上に構築するものである。

これまで、1組織、1国の日本美術品のカタログを作成し、冊子媒体で出版する事例はあったが、WEB 上のデータベースに情報を統合的に集約するものは存在しない。このプロジェクトでは、さらに画像情報あるいは3次元モデルを作成してデータベース上に搭載し、各機関の収蔵品の比較検討を可能とするものである。

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

2017年度は、以下の順でアメリカ・ヨーロッパの美術品デジタル・アーカイブを実施した。

シカゴ美術館のライオンコレクションの絵本・絵入本を中心として、デジタル化を実施した。ニューヨーク・メトロポリタン美術館の古典籍の追加撮影を実施、ローマのピゴリ二国立民族学博物館の古典籍のデジタル・アーカイブを完了させた。大英博物館では、インターンシップと連動させ、根付・罌の3D アーカイブを実施した。ドレスデンの古典籍を完了、チューリッヒでの、グロス美術書コレクションを開始、リートベルグ博物館の浮世絵を完了、ベルン市立博物館の浮世絵・図書も完了させた。ベルギー王立歴史美術博物館の古典籍アーカイブを開始した。UC バークレーは、デジタル化ワークショップを実施し、また、ARC のデジタル展示システム、バーチャルインスティテュートシステムの紹介を行い、データベースを活用した、一般向け情報発信のプラットフォーム(バーチャルインスティテュート)の紹介を開始した。これらの活動により、2018年2月末現在、浮世絵は、53万件(内公開は、11万件)、古典籍は、15万件(内公開は、9万件)を数えるようになった。

今年度は、個人コレクション同士のネットワーク構築を行い、上方絵コンソーシアム、近代版画コレクショングループ、絵本・美術書グループを形成し、お互いの情報交換を推進した。ライデン民族学博物館など、すでに大量のデジタルか作品がある場合、ARC ポータル・データベースとの連携を進めるための説明活動も強化した。ケンブリッジ図書館の和刻本を中心とするデジタル化は、当該図書館からの発信が開始されており、2018年度中にすべてのデジタル化作品の公開に向けた準備を開始した。

なお、成長を続けるデータベース群を使い、アナログ時代とどれほどの資料閲覧環境が増進したかを検証するため、鈴木春信の絵本を使って、調査を行なった。

6. 研究業績

(1) 著書

(2) 論文

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他